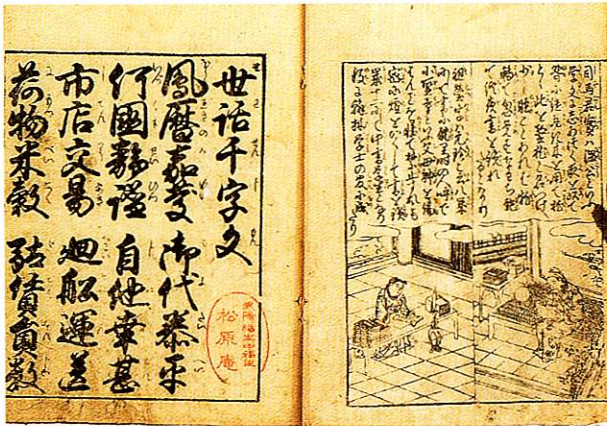


中国、魏の武帝治下で鍾繇（しゅうよう）が作ったと伝えられる。近世になると、藩校・郷校・私塾・寺子屋の教材として使用される。一字の重複もない千文字の漢字で四字一句として二五〇句で全体を構成されている。韻をふみ、内容は自然現象から社会事象に及ぶ。

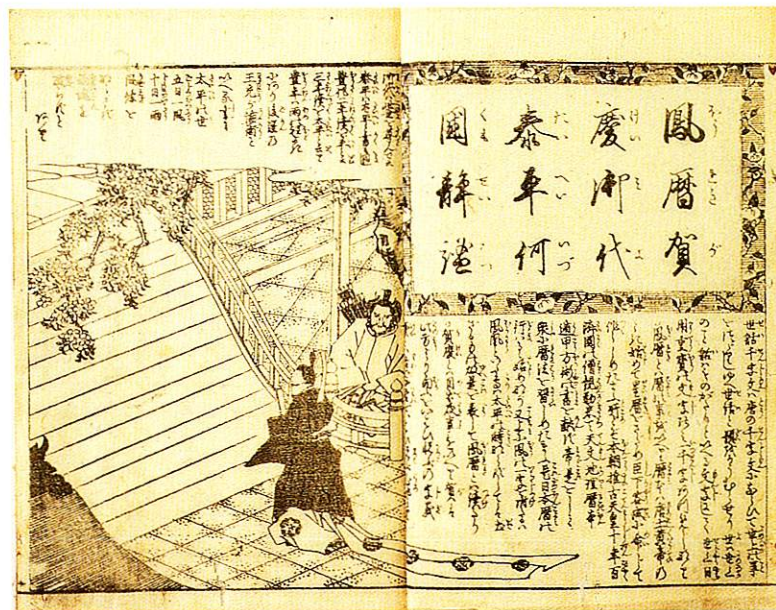
社会生活関係を編集した本が享保二年（一七二七）初版『世話千字文』である。江戸時代の一般庶民階級は、『千字文』の類の往來物を辞書のかわりとして利用して文字に関する知識を得ていた。



1  
世話千字文  
せわせんじもん  
一冊 半紙本  
文政6 (1823) 求板  
河内屋平七

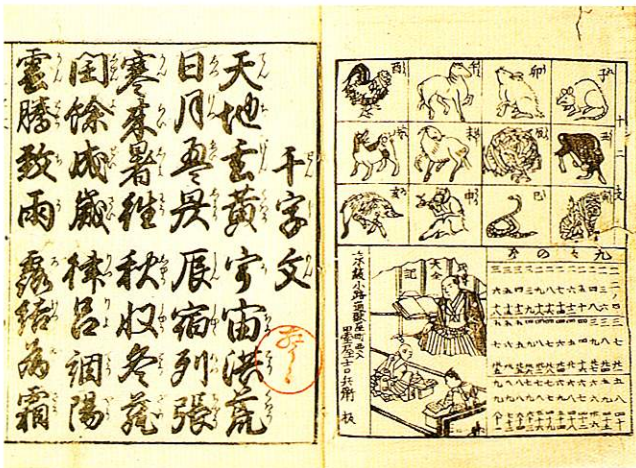


2-1  
〈寺子教訓〉世話千字文絵抄  
せわせんじもんえしょう  
一冊 半紙本  
天保9 (1838) 孟春  
木村明啓編輯 曉鐘成書画 森英三浄書  
河内屋喜兵衛・河内屋平七



2-2

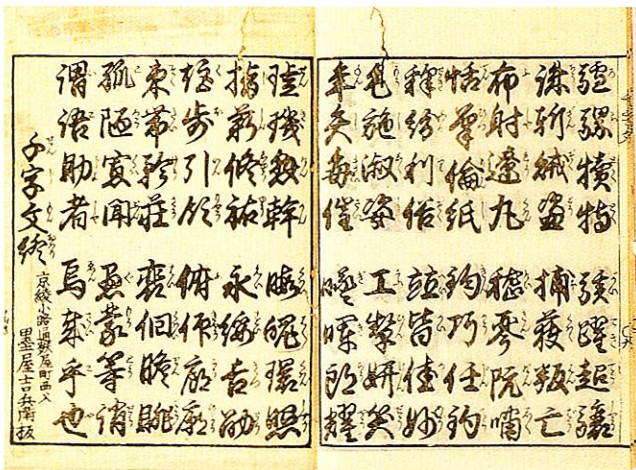




3-2



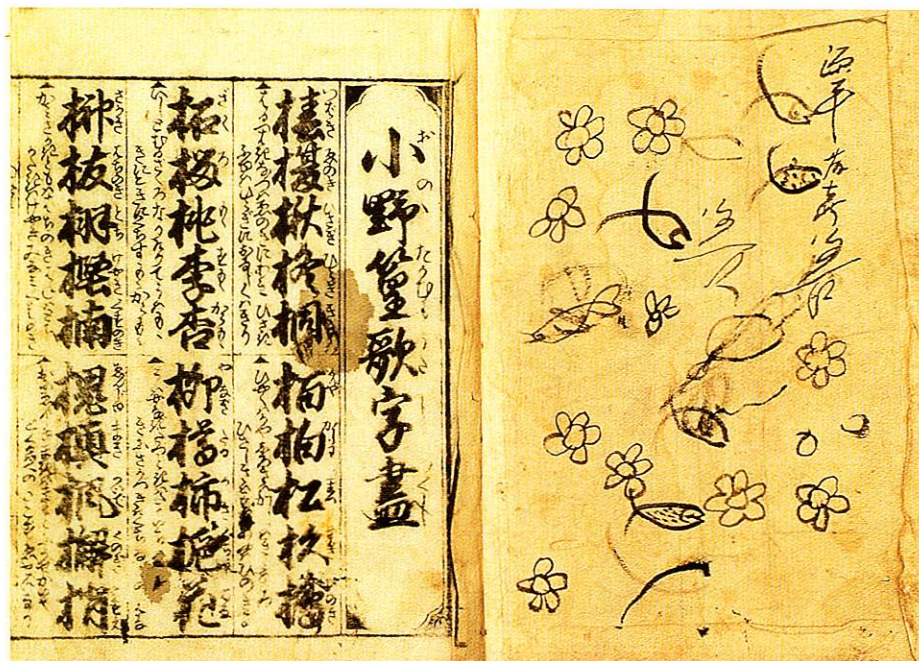
3-1  
 〈新版〉千字文〈かな付〉  
 せんじもん  
 一冊 半紙本 江戸期  
 墨屋吉兵衛板



3-3



4-1  
 〈新版〉小野篁歌字尽  
 おののたかむらうたじつくし  
 一冊 半紙本 江戸期  
 墨屋吉兵衛板



4-2